



# 人と動物との共存・共生をめざして

## Part 3

2019年度後期から6期にわたり実施した「人も動物も満たされて生きる～アニマルウェルフェア（動物福祉）をめぐる～」の延長で、「人と動物との共存・共生のあり方」をテーマに学んできました。今期は、酪農家やジャーナリスト、獣医師らが講師となり、それぞれの現場での課題などに学びながら、人と動物とのより良い関係を創る道筋を探っていきます。


日時	10月24日(火) 開講 全6回 月1回第4火曜日 18:45~20:45
会場	さっぽろ自由学校「遊」 (札幌市中央区南1西5 愛生館ビル5F 501A)
受講料	一般 6,000円 会員 4,800円 25歳以下 2,400円 (単発 一般1,500円 会員・オンライン1,000円 25歳以下500円)

※教室とオンラインの併用方式、教室参加者には資料配布(無料)

第1回  
10/24(火)

**舎飼いから放牧酪農への転換  
～牛の生理とチーズづくりの視点から～**

講師 小栗 隆 (おぐり たかし) 酪農家  
講師 小栗 美笑子 (おぐり みえこ)  
「チーズ工房小栗」代表 (共に八雲町在住)




(隆) 1950年、八雲町生まれ。帯広畜産大学を卒業後、実家で就農。  
(美笑子) 1950年生まれ。大谷学園短期大学を卒業後、幼稚園の保育を経験。結婚後に就農し、2004年にチーズ工房を設立。現在は年間5トンのチーズを製造。1990年代後半、舎飼いによる「介護酪農」から放牧スタイルに転換し始めた小栗牧場。全国草地畜産コンクールでは農林水産大臣賞を受賞し、「土・草・牛」の恵みから生まれたチーズ製造も続けてきました。二人がその歩みなどを語ります。

第2回  
11/28(火)

**植物性食品と栄養、動物との関係  
～プラントベース食品発売の背景には？**

講師 森 映子  
時事通信社編集委員




1991年、時事通信社入社。98年から同社文化特信部に所属し、アニマルウェルフェア、環境、ジェンダーなどの取材を続ける。著書『ヴィーガン探訪～肉も魚もハチミツも食べない生き方』(角川新書、2023年)、『犬が殺される～動物実験の闇を探る』(同時代社、2020年に増補改訂版)。  
近年、植物由来の原材料で作られた「プラントベース」食品、動物性食品を出さないヴィーガン飲食店が増えている。関心が高まっているヴィーガンと栄養の関係、さらにアニマルウェルフェアについてお話しします。

第3回  
12/26(火)

**タンチョウレスキューの現場から**

講師 飯間 裕子 (いまい ひろこ)  
釧路市動物園ツル担当 (獣医師)




1980年、香川県生まれ。2009年に酪農学園大学獣医学科卒業後、釧路市動物園に勤務。事故で負傷し保護された野生タンチョウの治療や、事故防止と共生のための普及啓発に取り組んでいる。  
生息数が増え、生息地も広がったタンチョウ。人の近くで暮らし始め、事故にあうケースも増えています。最近急増しているのは交通事故。この先、タンチョウと仲良く暮らすために何ができるか、一緒に考えましょう。

第4回  
1/23(火)

**医薬品開発と動物実験**

講師 海野 隆 (うんの たかし)  
医薬品非臨床安全性コンサルタント




企業数社にて動物実験に従事したのち、リジェネプロ(株)の前臨床部長。現在、日本毒性学会名誉トキシコロジスト。元日本製薬工業協会基礎研究部会副会長、元動物実験代替法学会理事など。  
現時点において医薬品開発における動物実験は欠くことのできないものですが、動物福祉への国際潮流(3Rsの原則)を受けて様々な配慮がなされつつある。本講座では、その現状と将来展望を紹介します。

第5回  
2/27(火)

**工業型畜産と食料自給率  
～乳牛のアニマルウェルフェアを考える～**

講師 岡井 健 (おかい けん)  
獣医師 (別海町在住)




1943年、東京生まれ。帯広畜産大学獣医学科卒業。臨床獣医師として根室地区農業共済組合の6診療所に勤務し、2004年に定年退職。岡井家畜診療所を開業して現在に至る。  
半世紀あまりにわたり、酪農の臨床現場で診療を続けてきました。「日本の食料事情に畜産の形態が大きく関わっている」との視点から、穀物の多給が乳牛の健康におよぼす悪影響や、アニマルウェルフェアに対する見方などについてお話しします。

第6回  
3/26(火)

**「老牛ホーム」を創る取り組み  
～人の為に休まず働いた牛たちに  
ゆつくり余生を～**

講師 朝倉 真輝子 (あさくら まきこ)  
老牛ホーム「Feel at home」代表 (島根県松江市在住)



島根県松江市在住の50代の主婦。看護師として総合病院で勤務後、動物看護師の資格を取得し、動物病院で勤務。2020年から酪農と乳製品加工を手がける牧場の従業員。今年春に老牛ホームを設立。現在、4頭を飼養する。  
「経済動物」という名の下での乳牛たちの生命の扱われ方に疑問を持ちました。お乳が出なくなった牛に「お疲れさま」「ゆつくり過ごしてね」と言える仕組みがあっても良いのではないのでしょうか。日本初の「老牛ホーム」の試みを紹介します。

### 【お申込方法・お問合せ先】

右のQRコードから申込フォームにご記入の上お申込み、もしくは下記メールアドレス宛てに「講座名」「お名前」「メールアドレス」「ご住所」をご記入の上、お申込みください。指定口座(郵便振替: 02780-5-47036 自由学校「遊」)へ受講料をお支払いいただいた後、講座前日に開催URLを事務局より送信いたします。

NPO法人さっぽろ自由学校「遊」 [moshikomi@sapporoyu.org](mailto:moshikomi@sapporoyu.org)

TEL.011-252-6752 FAX.011-252-6751 〒060-0061 札幌市中央区南1西5 愛生館ビル5F

